

音楽教育のススメ 第33回: 一般大学の音楽プログラムについて<スタンフォード大学編>

みなさま、こんにちは。シリコンバレーでピアノ教室を主宰している、有座なぎさです。
「音楽教育のススメ」と題したコラムを毎月第四週目に担当させていただいています。
このコラムを担当させていただいてから、今年で3年目となります。ベイエリアのみならず、
全米各地、そしてまた日本から、アメリカの音楽大学について興味や関心がある方からの反響
の大きさに、驚きと感謝の気持ちで一杯です。これからもアメリカの音楽大学進学、また音楽
教育全般について、役に立つ情報をお届けして参りたいと思います。どうぞよろしくお願いい
たします。

さて、今回は、SFベイエリアの名門、スタンフォード大学の音楽プログラムについてです。
スタンフォード大学は、クリントン元大統領の一人娘、チェルシー・クリントンさんが入学し
たことでも話題となりましたね。イギリスの大学評価機関である、クアクアレリ・シモンズ
(QS)が毎年発表している世界の大学ランキングでは、2021年に世界第2位、また2020年
度の大学合格率は4.3%でした。それほどまでに全米最難関であり、また評価の高い大学な
ので、当然アカデミックの学問が中心ですが、音楽学部もあります。同大学が所有するBing
Concert Hallは、口サンゼルスのウォルト・ディズニーホールの音響も手がけた、豊田泰久
氏らがデザインや音響設計に携わった一流の音楽ホールで、2013年に建設されました。国
内外から著名なアーティストたちを招聘してコンサートを行っている他、学内オーケストラなど
のコンサートでも使用されています。スタンフォード大学では、アンダーグラッド(学士過
程)、グラッドスクール(修士課程)とともに、音楽を専攻(メジャー)とすることができます。た
だ、これだけ最難関の大学ですから、音楽のみを専攻とする人はほとんどおらず、大抵の学生
は、ダブル・メジャー、もしくはマイナーとして、音楽を専攻する人が多いようです。大学で
は、作曲、指揮、音楽史、民族音楽、楽典、音楽学、演奏(パフォーマンス)、ジャズなどが学
べる他、自らデザインした専攻というのも認められています。音楽学部だけで教授陣は100
名ほどいて、ピアノや声楽(オペラ含む)の他、ほぼすべてのオーケストラの楽器の個人レッス
ンが受けられます。私の周囲で、高校まで真剣に音楽を勉強した人の中でも、スタンフォード
大学に進学を決めた学生は多く、そのほとんどが音楽以外でも自分の将来の可能性を探究した
いという強い意思を持っていると感じます。

また、スタンフォード大学には、CCRMA(カルマ)と呼ばれる、北米最大規模のコンピュータ
音楽センターがあり、コンピュータを用いた音楽や作曲など幅広い分野が学べます。実は、私
が日本にいた時に教えていた生徒が芸大に進学し、彼女は芸大からこのスタンフォード大学の
CCRMAに一年間、奨学金給付制度で留学することになり、そこで私との20余年ぶりの再会
を果たしたという思い出深いエピソードがあります。教え子たちが、成長して大学に進学した
り、卒業後も立派に活躍したりする姿をみるのは、指導者として冥利に尽きます。これからも
若き音楽家たちを応援しています。